

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時に職員全員で考えて作り上げたが、2年目に他施設の理念を勉強して見直しの検討を行った。地域に密着したサービスを提供するという理念は当初からの方針である。</p>	<p>買い物や、外食、地域との交流など地域の中でごく普通に生活している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>個々のケアプランを立てるとき、理念を念頭において計画を立てている。また、月1回の職員会議で理念が生かされたケアが実践できているか検討している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ケアプラン作成時や行事など機会ある毎に話題に取り上げ説明している。</p>	<p>敬老行事や花火大会などに家族の方々と地域の人達と一緒に行事に参加するなど、交流は盛んに行われ、地域密着の理念は理解されている。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域との交流は当初からの方針で、行事にお誘いしたり、季節の郷土料理を作ったときはお届けしたり、逆に野菜を頂いたりと普通の近所付き合いをしている。</p>	<p>野菜は、地域の方々の差し入れが多くてたいへん助かっていると同時に、地域の人達との交流ができています。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として一部の行事に参加しているが、老人会や地域活動には参加していない。</p>	<p>もっと積極的に参加することを検討している。</p>

グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近所の一人暮らしのお年寄りに食事やお茶を飲みに誘ったりしているが、話し合いはしていない。</p>		<p>地域のお年寄りに、私たちに何ができるのか、何をしないでいけないのか、職員の課題として取り上げていきたい。</p>
<p>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回、外部評価を受けたことで、職員の意識も変わり大切さを知った。またその結果を話し合い、改善に取り組んだ。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には積極的に意見交換を行い、サービスの向上に役立っている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>合併前は密接な連携が取れていたが、市になってからは距離も離れたこともあり、疎遠になっている。包括支援センターと特養遠山荘とは連携は密で、地域福祉の向上に努めている。</p>		<p>自治振興センターに関係職員が配置されることが望まれる。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々の研修の中で学ぶ機会はあるが、知識として理解している。必要とする人がいないため、活用していない。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>いろいろな研修会で学ぶほか職員会議でも話し合いを行い、意識を高めている。</p>		

グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に、施設見学やホームページの閲覧などにより生活の様子や理念などあらかじめ知っていただき、契約時には十分な説明を行い理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の時や、毎月のお便りの中で説明と家族の意向を聞くことにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族へのお便りに生活状況と健康状態をお知らせし、数ヶ月毎に暮らしぶりを紹介している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に、話し合う機会を設け、要望や意見等をお聞きしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議で意見を聴取し、反映する機会を設けている。</p>	<p>職員からの提案で、故郷探訪と題して利用者の実家、あるいは生まれた地域などを訪ねる行事を実施している。</p>

グループホームわだの家

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日勤者を増やすなどサービスの向上を図り、さらに職員を増強し、勤務体制に支障が出ないように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なく、結婚退職者1名だけである。管理者は、より良い介護サービスが提供できるよう交代した。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会には積極的に参加する機会を与え、毎日の勤務の中でも考えながら行動している。</p>		<p>介護技術の向上や利用者へのサービス向上を図るため技術講集会への積極的参加を実施している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ネットワークへの取り組みは積極的に行っており、最初は数ヶ所の施設との交流から、現在では飯田下伊那圏内のネットワークに加入、相互評価などサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員とのコミュニケーションを重要視しており、ストレス軽減を図っている。</p>		<p>全職員揃っての親睦事業はできないため、数名の職員でストレス発散デーを実施している。</p>

グループホームわだの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	高い介護技術の習得のための講習会や研修会に参加できる体制を取っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	利用者一人ひとりに担当を決め、まずはその担当者が本人としっかり向き合い信頼関係を築くことから始めている。その様子を職員会議で話し合い、全職員が共通の情報として持ちつつ担当者に助言を行うことができている。		
24	初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族からの相談には懇切丁寧に対応し、困っていることがあればできるだけ助言、援助を行う努力をしている。		
25	初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や、家族の意向をよく聞き、どのような援助が最適かを話し合うこととしている。		
26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	理念の、「家族として共に助け合いながらなじみの関係と信頼を築く」を念頭に、徐々に親しんでもらうよう努めている。		ここでは遠山という地域性が生かされ、職員も利用者もよく知っている顔なじみであるという最適な環境にある。

グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を介護するという気持ちでなく、共に助け合いながら生活しているということを大切に、お年寄りの知恵を借りたり、昔話に花を咲かせたり毎日の生活を楽しんでいる。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との関係をより深く持つために、四季折々の行事には必ず足を運んでいただき、一緒に過ごす機会をつくっている。</p>	<p>家族と一緒に旅行がしたいと考えている。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>利用者の気持ちを大切にしながらも、家族の思いも考慮し、お互いの気持ちを代弁するなど本人と家族の絆を深める努力をしている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>故郷探訪は、単に利用者の生まれ育った土地を訪れるのではなく、そこに住むなじみの人との出合いを大切にしている重要な行事である。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>中には気が合わない人もいたりするが、孤立することがないように気配りをし、利用者同士の関わりを大事にしている。</p>	



グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	四季折々の行事、その他の催しにはお誘いの案内をし、参加していただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを大切にしており、つぶやきや仕草の中に意向を見つける努力をしている。		ちょっとした動作の中に、欲していること、思いなどを見いだすという心遣いを徹底したい。
34 これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の話の中から生活歴、生活環境を把握し、毎日の生活の中に取り入れる努力をしている。		生活シートを利用し、サービス提供に役立っている。
35 暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間シートを利用し、一人ひとりの生活の様子を書き込み、利用者の状態を全職員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の見直しカンファレンスで本人の様子や家族の意向などを話し合い、介護計画作成に反映している。		

グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、その時に応じて現状に合うプランを立てるようにしており、急な変化には家族や職員で話し合いの上、見直すようにしている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートなどで特に注意したい事項や、ケース記録には利用者のその時の様子を中心に記入しているが、ケアプランに沿った記録ができていない。		ケアプランに沿った記録ができるよう、記録の仕方の改善をしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診の送迎、家族の宿泊等柔軟な対応を実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練には、地域住民の協力を得て実施。子ども達の訪問や敬老行事に青年会のメンバーによる舞踊ショー等いろいろなボランティアを受け入れている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	選択肢が少ないため利用はしていない。		



グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとは連携を密にしており、 時どきケアマネジャーの訪問を受けている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時以外に、月2回程かかりつけ医師の往診をお願いしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医師は認知症の専門医ではないが、認知症には精通しており、適切な指導と治療を受けている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設には3名の准看護師免許取得職員が勤務しており、日常の健康管理には特に配慮している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には必ず管理者が付き添いカンファレンスにも家族に同席し、入院中は面会に行き主治医との連絡も密に行っている。退院後の相談も行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に備えた話し合いには家族と職員だけでなく、かかりつけ医にも助言や指示をいただき看取りまでの確認を行うが、最終的にはご家族の判断に委ねている。		家族と看取りまで確認したものの、最終段階になって家族が入院を決められたケースがあった。今後は、家族の意向を文書化し家族が安心して任せられるように信頼関係を築きたい。

グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りについての職員間の意思は確認しあっているが、具体的の方針を決めてはいない。		終末ケアについては、職員間で具体的に話し合いを持ち、できることできないこと見極め、かかりつけ医の助言を得ながら検討したい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の場所に移るとき、当施設での生活状況、健康状況など家族や、ケアマネジャーには情報交換を十分に行っている。		場所が変わっても、利用者の思いが続けられることを願い、協力していきたい。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切に、プライバシーを傷つけない配慮を心掛けている。		馴染みが、馴れ合いになってしまい、言葉かけが不適切だと思われる面がある。学習会などで自己評価していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いは大切に受け止めるよう、話し合いや、説明は納得がいくまで根気よく行っている。		

グループホームわだの家

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしい暮らし、いい笑顔で穏やかに過ごしていただけるよう努めている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容は職員が行っている。身だしなみやおしゃれは本人の意向を重要視している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の食事の準備や片付けの他、四季折々の郷土料理を利用者と一緒になって作ることを重要視している。特に柚餅子や漬け物、くるみ和え料理などは先にたってやっていただいたりしている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ほとんど本人からの希望はないが、おやつや、味付けなどはその人の好みに合わせている。希望を取り入れた献立に努めている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>昼間はできるだけトイレでの排泄に心掛けている。チェック表により、排泄パターンを把握している。</p>		

グループホームわだの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆず湯、薬湯などを利用し、ゆったりと入浴できるよう心掛けている。		希望があれば夕食後の入浴もできる、というのではなく積極的に勧めていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不安な人には添い寝したり、安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のその日の健康状態等により、一人ひとりの役割や、日々の楽しみが保たれるよう支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望すればできるように支援することになっているが、今のところ希望者もなく、支援しなければならない人もいない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出、散歩は希望通りにできるよう支援していて、近くのスーパーへの買い物やドライブは楽しみのひとつになっている。 また、お隣さんにはお茶に誘っていただいている。		

グループホームわだの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	数人単位あるいは全員で2時間ぐらいのドライブや、半日かけてのお出掛けではドライブイン等での外食、また他施設との交流行事等を行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は、家族の都合をあらかじめ把握し、その時間帯に掛けるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも、いつでも来ていただけるよう門戸を開いている。また、居室などで気楽に過ごせることができるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議では拘束行為の具体例を話し合うなど理解に努め、拘束は絶対にしないよう徹底して取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所当時の理念で、居室はもちろん玄関や非常口も夜間以外は無施錠を実施している。		

グループホームわだの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>常に見守りをし、突然の外出にも対処できるよう職員に徹底しており、安全に配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>刃物は見えないところに、薬品類は手が届かない場所に置くなど配慮している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>毎月の職員会議で、施設全体の事故防止の他、入居者一人ひとりのヒヤリハットを検討、事故防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>職員会議の他、日頃の勤務の中で、看護師を中心に応急手当と初期対応について勉強をしている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>非常火災通報装置を設置、非常時に備えている。また、防災訓練には隣近所の人達にも参加していただき、協力を得ている。</p>		<p>地域の人達と、非常時の防災協定の締結を準備中。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>面会時によく話し合い、説明を行っている。</p>		



グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>口頭の伝達その他、日々の記録と連絡ノートにより情報の共有化を図っている。また、緊急時にはすぐ管理者に連絡を取り、指示を仰ぐことにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の服薬については、名前、目的や効力、副作用、服薬支援等について全職員が理解している。</p>	再度、全職員に徹底したい。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排便管理は常にチェックしており、簡単な運動や食事等についても工夫している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後の歯磨きの支援を行うほか、自分のできない人にはスポンジブラシで洗浄している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食の食事量や水分量を把握、一人ひとりの状態に合わせて確保できるよう支援している。また、入居者の好みに合わせた献立に配慮したり、食事はゆっくり本人のペースでできるよう支援している。</p>	

グループホームわだの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成、職員会議の折に勉強会を実施、手洗いとうがいの励行、施設内の清潔と消毒など感染予防の徹底を実行している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁など調理器具は毎夜、夜勤者が消毒する他手洗いの励行等衛生管理は徹底している。 食材はできるだけ新鮮なものを使用するよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設周辺は四季折々の花が楽しめるよう種々の花や花木を植え、入居者や家族また近所の人達にも楽しんでもらっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周囲は花に囲まれ、居室や食堂には季節の花や壁飾りが飾られ、季節を感じながら穏やかに過ごしていただけるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にイスを置き、2,3人の団欒または、一人きりになれるよう配慮している。		施設内に居場所が作られていないため、廊下や居間にイスなどを置いて対処している。季候がいいときは庭にテーブルを置き、外気浴を楽しんでもらうなど工夫をしている。

グループホームわだの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人差はあるが、家族の協力により使い慣れた家具を持ち込んだり、好きな絵や家族の写真を壁に貼ったり、それぞれが自分の居室として工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>においには充分気をつけ、換気や温度調整にも配慮している。温度、湿度には、お年寄りに配慮した設定を心掛けている。</p>		<p>トイレなどどうしても匂いが気になる場所があり、オゾン発生器や、炭、消臭剤等を使用しているが、完全にはなくなる。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手すりを設け、居室は洋室の他和室にするなど、利用者の好みや身体機能に合わせて自立した生活が送られるよう工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりに合わせた、さりげない支援をしている。</p>		<p>利用者一人ひとりの「できること・できないことシート」を作り、全職員がこれを共有し、自立に向けての支援が均一にできるようにしたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑には野菜を植え、収穫をしたり、庭には四季折々の花を植え、利用者が散歩しながら楽しむことができる。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームわだの家

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の一人ひとりの思いを大切に、自立に向けての支援を心掛けている。そのために、安全で住みやすい環境を整えたり、散歩やドライブといったお出掛けの機会を設定したり、塗り絵や、タクティールケアといったいろいろな療法を取り入れ、楽しみと潤いのある生活を送ることができるように支援している。そして、地域性をいかして入居者とその家族と地域の人達とのふれあいを一番大切にしている。